動物レスキュー通信

2014年5月 第12号（平成26年5月1日発行）

発行元
一般財団法人　国連世界動物救済支援機構　詩月財団

詩月(しづく)：詩月財団　理事長
愛玩動物飼養管理士　一級
お問い合わせ：sizuku.foundation@gmail.com

しつけの必要性 しつけは殺処分減少に繋がります

5月になり、新しい生活を始めた方々もその変化した習慣やルールなどにそろそろ馴染んできたのではないでしょうか？今月は、飼い主さんとワンちゃんの普段の生活や、ワンちゃんとお散歩やお出かけをする際にもとても大切になってくる、しつけやマナーなどに付いてお話してみようと思います。「しつけなんてしなくてもイヌのしたいようにさせてあげればいいのよ！」と思われた方もいらっしゃるかもしれません。しかしそれはワンちゃんにとっても飼い主さんにとっても不幸の始まりになってしまう可能性があるのです。こう私が言うのには理由があります。それは飼い主さんがワンちゃんを飼いきれなくなって保健所に持ち込む理由として「凶暴だから」「吠えるから」「言う事を聞かないから」「バカだから」などという事を言う方がいるからなのです。ワンちゃんが凶暴になったり吠えたりするのは恐怖心からだったり警戒心、ストレスなど、様々な理由があります。言う事を聞かないと言うのは、飼い主さんと上手く意思疎通が出来ていない事が理由だったりします。この事を飼い主さんがきちんと理解をして欲しいのです。私は、ワンちゃんをしつける　＝　飼い主さんも勉強するという事だと思っています。そうする事によって飼い主さんとワンちゃんの心が通じ更に仲良くなり、結果としては先程の様な理由をあげて捨てられる事はなくなり、殺処分減少につながるはずだと私は思います。

しつけの基本と大切な事

ワンちゃんを何匹も飼われていて、ドッグトレーニングをされた経験もある方はこう教えて下さいました。しつけの基本は「待て」「よし」「おいで」です。どうでしょうか？　覚えやすいですよね。これはワンちゃんと生活していく上で、そしてちょっとしたお散歩などでも公道に出るわけですから、ワンちゃんのためにも飼い主さんのためにもマナーとして身に付けておかなくてはなりません。ワンちゃんの苦手な方が側を通る時や、自転車、車などの危険がある時、飼い主さんがワンちゃんの排泄物を処理している際などは「待て」の出番です。「オスワリ」や「フセ」など、そのワンちゃんの得意な体勢で待たせてあげる事が大切です。それらが終わると「よし」で開放してあげましょう。そして一緒に歩いている時も、ワンちゃんがリードを引っ張って自由気ままに歩かせるのではなく「おいで」で飼い主さんの足元にきちんと付いて歩けるようにしてあげましょう。そうする事によって、ワンちゃんが飼い主さんとの上下関係をきちんと理解し信頼関係が深まり、社会性が身に付きます。これらワンちゃんのしつけ自体はとても大切ですが、他にも大切な事があります。それは飼い主さんのマナーなのです。そのマナーとは「必ずリードを付ける」「排泄物はきちんと処理して持ち帰る」「民家や植木鉢、公園の遊具などを汚さない」「ワンちゃんから目を離さない」などです。知らず知らずのうちにやってしまいがちなのは、ワンちゃんとのお散歩中にぼっとりとお友達に会い、そこでワンちゃんから目を離しておしゃべりに花を咲かせている間に、他のワンちゃんや子供がワンちゃんによって来て、そこで咬みついてしまった。などという事です。このような事故は咬まれた子供やワンちゃんだけではなく、飼い主さんにとっても不幸な結果を招いてしまいます。ワンちゃんも子供も悪気があっての事ではないので尚更です。こういう事故は飼い主さんがワンちゃんから目を離さずにきちんと見てあげていれば、未然に防げる事故なのですから。

ここまで読んで頂いて分かるように、ワンちゃんのしつけとは、ワンちゃんに言う事を聞かせることだけが大切なのではなく、飼い主さんが一緒に勉強したり、飼い主さんの心構えが非常に重要だと言う事が分かっていただけたのではないかと思います。ワンちゃんがかっこよくお散歩やお出かけできる事によって飼い主さんの行動範囲も広がり、それが楽しくなり、又、ワンちゃんと一緒に外で色々な人との関わりを持つ事ができ、飼い主さんにとってワンちゃんはとても誇れる存在になり、そうなる事によりワンちゃんとか飼い主さんとの絆が深まり、結果的に終生飼育に繋がり、殺処分減少に繋がる理由がお分かり頂けた事だと思います。

詩月財団では今後も様々な情報を発信し、この世から犬猫の殺処分が無くなるよう努力してまいります。

（詩月）